

がんばる 介護事業所 表彰



要介護度の維持改善や雇用環境の改善に取り組む
富山県内の介護事業所を紹介します

がんばる

介護事業所表彰

とは…

高齢者の自立支援や尊厳の保持に資する良質な介護サービスの提供や、
介護職員の意欲向上につながる
人材育成の充実・職場環境の改善などに積極的に取り組み、
他の模範となるような顕著な成果を出している介護事業所等を表彰し、
これを広く周知することにより、
介護サービスの質の向上や介護人材の安定的確保を図るものです。

(平成 28 年度創設)

以下の 2 部門を設定し、それぞれ該当する事業所等を表彰しています。

要介護度維持改善部門

県内で下記サービスを提供する介護保険施設・事業所

- ◎介護老人福祉施設（地域密着型を含む）
- ◎訪問介護
- ◎特定施設入居者生活介護
- ◎介護老人保健施設
- ◎訪問入浴介護
- ◎認知症対応型共同生活介護
- ◎通所介護（地域密着型を含む）
- ◎夜間対応型訪問介護
- ◎小規模多機能型居宅介護
- ◎認知症対応型通所介護
- ◎定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- ◎看護小規模多機能型居宅介護

- 【取組み例】**
- ◎ 利用者の状態に合わせた個別訓練メニューの作成により、身体機能改善者が増加
 - ◎ 外部研修で得た知識や技能を共有し、チームで継続的に取り組んだことにより、褥瘡発生者が減少
 - ◎ 地域の行事や活動への参加促進により、昼夜逆転者が減少
- など

平成 28 年度受賞事業所等一覧

事業所名	所在地
特別養護老人ホーム あんどの里	魚津市
特別養護老人ホーム ながれすぎ光風苑	富山市
特別養護老人ホーム 二上万葉苑	高岡市
介護老人保健施設 みどり苑	富山市
デイサービスセンター はるかぜ	高岡市



表彰式

平成28年11月23日(水・祝)
「地域包括ケア推進県民フォーラム」
(於：高岡商工ビル)にて



雇用環境部門

県内で高齢者福祉サービス又は障害(児)者福祉サービスを提供する法人又は事業所

- 【必須条件】
- ①労働基準法等、法令に沿った就業規則の整備
 - ②労働基準法など労働関係法令、その他法令について過去3年間無違反
 - ③処遇改善加算Ⅰの届出
 - ④開設から5年以上

- 【取組み例】
- 新人職員の指導担当者に対する独自の内部研修の実施
 - 看護休暇・介護休暇の設定など育児、介護を両立できる取組みの実施
 - 職員の腰痛対策を含む負担軽減のための介護ロボット等の導入
 - ICTの活用による職員の負担軽減や業務省力化
 - 職員表彰制度の導入
- など

平成28年度受賞事業所等一覧

法人・事業所名	所在地
社会福祉法人 宣長康久会	富山市
社会福祉法人 ひみ福祉会	氷見市
社会福祉法人 舟見寿楽苑	入善町
(社会福祉法人梨雲福祉会) 特別養護老人ホーム 梨雲苑	富山市



要介護度維持改善 部門

サービス 介護老人福祉施設



社会福祉法人海望福祉会 特別養護老人ホームあんの里

【所在地】 魚津市仏田3468番地 【電話】 0765-22-8808
【URL】 <http://www.kaiboufukushi.com>

- その人らしい最期の時間を過ごせる環境づくり
- 誤嚥性肺炎の予防のため、刻み食・ミキサー食の廃止、
口腔ケアの実施
- 褥瘡ケアの実施

取組みを始めた背景・経緯

特別養護老人ホームあんの里では、ご利用者様の重度化が進み、ご利用者様とご家族からの看取りを望む声にお応えして、平成20年度から看取りケアに取り組みました。

取組みの概要・特徴

平成20年から平成28年までに合計88名のご利用者様の看取りを行いました。また、平成27年度からは、比較的軽度の要介護状態でありながら、末期がんで余命宣告を受け、かつ、延命医療を望んでいないご利用者様（計5名）を空床型ショートステイで受け入れ、看取りまで支援しました。

特に工夫したこと・苦労したこと

安楽な看取りを支援するには、そこに至るまでの最重度の身体ケアの充実が不可欠でした。まず、誤嚥性肺炎の予防に向けて、口腔ケア技術の向上に取り組みました。次に、食形態を見直し、誤嚥しやすい刻み食・ミキサー食を廃止して、ソフト食を導入しました。

また、理学療法士の指導によるポジショニングの実施や多職種連携による褥瘡ケア、ICTを活用して施設内外の医療職やソーシャルワーカー、介護職、法人管理職が情報共有を図る取り組みなどにも力を入れ、チームケアを実践しています。

その他、従来型多床室（4人部屋）のご利用者様の尊厳を保つ看取り介護を行うため、従来型特養のフロア内に家族室という個室を設け、ご家族がいつでも宿泊でき、ご利用者様とご家族と一緒に尊い時間を過ごしていただくことのできる環境を整えました。

取組みの成果

入所後に家族懇談会を開催して、ご利用者様・ご家族、嘱託医、施設職員が、終末期医療を含めた今後の生活についての方針を共有しています。近年は、全体の7割～9割の方が看取りを希望され、その支援をしています。それによって、職員は「ひとりの人の人生の完結までを支援するライフサポーター」としての役割と使命感を感じながら、介護サービスの質向上に努めています。



家族室



家族懇談会

要介護度維持改善 部門

サービス
介護老人福祉施設



社会福祉法人光風会

特別養護老人ホームながれすぎ光風苑

【所在地】 富山市流杉77番地 【電話】 076-424-7005

【URL】 <http://koufuukai.jp>

- 利用者の好みに合わせた飲料の提供による水分摂取量向上
- 積極的なトイレ誘導などによるおむつ使用率の減少

取組みを始めた背景・経緯

地域包括ケアシステムの構築に向け、特別養護老人ホームについては質の高いサービスを提供することが社会的に求められるようになりました。そこで当施設は平成26年から2年間で、「介護力向上講習会」に参加し、科学的介護について学び、自立支援と介護の質の向上に向けた取組みを行いました。

取組みの概要・特徴

入所者の1日の水分摂取量の目標を1500mlとし、水分摂取量を増やすよう取り組みました。また、おむつゼロを目標に、トイレでの排泄や歩行器での歩行練習を行いました。そして常食への移行を目標に、咀嚼状態や嚥下状態を確認し、食形態を見直すとともに食前に嚥下体操を行う等、口腔機能の向上を図りました。また機能訓練指導員も配置し、身体機能の維持向上を目指し、個々のプランに沿って機能訓練を計画的に実施しました。

特に工夫したこと・苦労したこと

水分摂取については、摂取量が少ない方の摂取量を増やすことに苦労しましたが、個々の好みに合わせ、幅広い種類の飲み物を提供するとともに、飲みやすい形態、容器、姿勢を見直し、全体的に摂取量を増やすことができました。歩行器での歩行については、生活の中でも実用的に使用できるよう積極的に訓練し、日中の歩行距離を少しずつ延ばしていきました。また、個別に排泄のタイミングを捉えてトイレ誘導を行うことで、紙おむつの使用率を減らすよう工夫しました。常食への移行については、義歯作成や義歯調整、嚥下訓練や口腔内ケアを実施するとともに、正しい座位姿勢ができるよう支援しました。

取組みの成果

平成26年7月には1日の平均水分摂取量1100ml程でしたが、平成27年10月には平均1300ml程に増加しました。水分摂取量の増加は自然排便を促す事に繋がり、下剤の使用率が18%減少し、紙おむつの使用率は52%から26%に減少しました。また、歩行状態や移乗動作が改善し、さらに食事形態は、主食が8%、副食は6%常食に移行しました。今後も自立支援に向けた介護を行い、質の高いサービスを提供できるよう努めていきたいと思います。

水分摂取の様子



歩行訓練の様子

要介護度維持改善 部門

サービス
介護老人福祉施設



社会福祉法人射水万葉会 特別養護老人ホーム二上万葉苑

【所在地】高岡市二上町1004番地 【電話】0766-25-0808
【URL】<http://www.imizu-manyoukai.or.jp>

- 嘱託医や管理栄養士との連携による経口摂取への移行
- 歩行器による別フロアへの移動見守り
(車いす利用者の歩行訓練)

取組みを始めた背景・経緯

ADLの維持改善に向けて、平成22年度より介護力向上講習会に毎年参加し、科学的介護を学びオムツゼロを目標に日中のトイレでの排泄、歩行器での移動への取組み、更に平成25年度より嘱託医や管理栄養士と連携を図り食事の常食（経管栄養者の経口摂取）に取り組んでいます。

取組みの概要・特徴

平成25年度より管理栄養士と連携し、食事形態の見直しを行い経管栄養者の経口摂取の取組みには歯科衛生士指導のもと口腔ケア・嚥下の研修会を実施しました。また、車いす利用者の歩行器移動に向けては、目的や楽しみを持って行えるよう基本プログラムの作成、個々の身体状況に応じた目標を設定し、歩行訓練を行いました。

特に工夫したこと・苦労したこと

歩行の個別目標に対し個別カードを作成、他のフロアへあいさつに行ったり、ショッピングや、地域小学校との交流等、外出の機会を増やす工夫を行いました。苦労した点では、経口摂取に取組む際、家族・嘱託医・管理栄養士・介護員等、多職種連携によるカンファレンスの日程調整の難しさや、嚥下機能評価を受ける為の協力病院の手配が大変でした。

取組みの成果

平成28年度、経管栄養3名の内、2名の方が3食を常食で経口摂取され、生活のリズムが整って夜間安眠できるようになり、笑顔が見られ、『〇〇が食べたい』等の発語が聞かれるようになりました。それを聞いた家族様もとても喜ばれていました。また、歩行訓練を継続する事で、日中傾眠傾向にあった方が、意欲的に行動する事が増えたり、認知症の方のBPSDが減少する成果が見られました。

この取組みにより職員の意識統一、個々の目標に沿ったサービスの質の向上につながったと思われます。

口腔ケア・嚥下の研修会



他フロアへのあいさつ

要介護度維持改善 部門

サービス
介護老人保健施設



医療法人財団五省会

介護老人保健施設みどり苑

【所在地】 富山市秋ヶ島146番1 【電話】 076-428-5565

【URL】 <http://www.sainouhp.or.jp>

- 排泄アセスメントシートによる排泄状況の把握
- 独自の嚥下食の作成
- 継続的なリハビリ等により在宅復帰率 50%以上を確保

取組みを始めた背景・経緯

平成 13 年に当苑は開設しました。開設から 15 年の間、老健施設の特徴である「多職種協働」「多機能」を実践するべく、「排泄」「食事」「リハビリ」に関して、それぞれの専門職種が中心となり、「自立支援」に向けて全職種協働で取り組んできました。

取組みの概要・特徴

認知症専門棟(定員 100 床のうち 40 床)において、脱オムツ、排泄の自立に向け、本人・家族の意向、ADL 状況、皮膚の状態など様々な項目を盛り込んだ独自のアセスメントシートを作成し、目標に向けて統一したケアを実施しました。重度嚥下障害や看取りの方に対しても食事の楽しみを残し、安全に経口摂取出来るように独自の嚥下食を作成しました。在宅復帰に向けてリハビリ専門職からの集中リハビリだけではなく、全職員で行う生活リハビリや家族への介護指導にも力を注いできました。

特に工夫したこと・苦労したこと

当苑で提供している嚥下食をすべてコード分類し、全職種が一目で見て分かるように写真付きの分類表を作成しました。また、言語聴覚士が個別に嚥下評価を行って介助方法を指導、さらに平成 27 年からは歯科医師による指導も開始し、口腔内の状態を継続的にチェックしてきました。在宅復帰に向けた家族への介護指導は、それぞれの家庭環境に合わせて無理なく介護できるよう、繰り返し指導を行いました。

取組みの成果

重度嚥下障害や看取りの方への嚥下食は現在、6 名の方が喫食されていますが、中には食形態が向上できる見通しの方もいらっしゃいます。また、脱オムツ、排泄の自立に取り組んだ結果、平成 27 年度は ADL 拡大 11 名、失禁量減少 13 名、失禁なし 5 名、意欲向上 2 名などという成果を上げました。排泄能力が向上すれば在宅復帰にもつながります。同時に介護指導を継続して行うことで、在宅で頑張って介護しようという意識がさらに高まり、在宅復帰率 50%以上を維持することができました。

口腔内の状態チェック



在宅復帰に向けたリハビリ

要介護度維持改善 部門

サービス 通所介護



社会福祉法人高岡南福祉会 デイサービスセンターはるかぜ

【所在地】高岡市オフィスパーク13番 【電話】0766-63-8825
【URL】<http://harukaze-takaoka.or.jp>

- ◎「出来ることは自分で」という意識への転換
- ◎メニュー表から選択できる食事の提供
- ◎利用者の趣味・経験を活かしたクラブ活動

取組みを始めた背景・経緯

利用者の「手伝うよ」、「やってみたい」との声から、これまで当たり前のようにスタッフが行っていた食事の準備・下膳、お茶くみ等の家事作業や活動の企画・提案方法を見直すようになりました。

どうすれば「自分のやりたいことが出来るのか？」を利用者と共に考え意見交換し、「作業スペース」や「くつろぎコーナー」、「趣味を活かしたクラブ活動」など環境改善に取り組みました。

自由にお茶が飲める環境



取組みの概要・特徴

一年程前から環境改善について検討し、平成28年の夏には、各テーブルに「誰もが好きな時にお茶が飲めるように」軽量タイプの卓上ポットを設置しました。さらに、「家事・手伝いボード」を設置し、取り組みたい作業を自分で選択できるようにしました。

趣味や職歴を活かしたクラブ活動、イベントを企画の段階から利用者に参加していただき、趣味の手芸を活かした作品作り、パン屋の職歴を活かした調理など、スタッフは利用者の「〇〇したい、やってみたい」という思いや意欲を尊重し側面的にサポートしています。

特に工夫したこと・苦労したこと

これまでの「危ないからスタッフが…」から「出来ることは自分で…」へ意識転換するため、スタッフ間で何度も話し合いの機会を作り、周知してから実行するまでに時間を要しました。

「自分で行うこと」の提案に戸惑う人もいれば、達成感や役割を感じる人もいました。スタッフからは無理強いすることもなく、利用者一人ひとりの気持ちの変化を見守ることとし、徐々に「自分で行うこと」に喜びを感じる人の輪が広がっていく様子が伺えました。



食事の準備の手伝い

取組みの成果

現在では、スタッフが声をかけなくとも日課として家事作業やクラブ活動など自分でスケジュールを立てている人もいます。そうした人の行動が消極的な人にも影響を与えており、取り組み当初に比べ、フロアに活気がみられるようになっています。

また、利用者の様々な場面で活躍している取り組みに対し、表彰することで今後の意欲向上に繋がればと考えています。



協力して下膳する様子

雇用環境 部門

サービス

介護老人福祉施設、短期入所生活介護、
通所介護、居宅介護支援、地域包括支援

社会福祉法人宣長康久会

【所在地】 富山市下夕林141番地 【電話】 076-467-1000

【URL】 <http://www.sasazuen.or.jp>



- 外部研修の公募制
- 意欲のあるパート職員の正職員への登用
- 出産、子育て、ハラスメント等何でも相談できる窓口の設置

取組みを始めた背景・経緯

外部研修については、誰が、いつ、何の研修に参加したのかの把握が不十分で、復命も徹底されておらず、職員の研修成果の反映や受講への意欲を阻害していました。

パート職員の中には、仕事への取組み姿勢が意欲的な人材が見受けられ、本人のキャリアアップや人材活用のため、正職員へ登用できる方法を検討することとしました。

相談窓口については、職場での人間関係やハラスメントが原因で辞職する職員も散見されましたが、気軽に相談できる場がなかったため、設置を検討することとしました。



取組みの概要・特徴

平成 22 年よりパート職員を含めた法人内 LAN システムを導入し、職員全員に研修内容の周知と受講申し込みについて公募制を実施しました。

パート職員にも評価制度を設けて、能力・意欲のある職員は積極的に正職員へ登用しました。

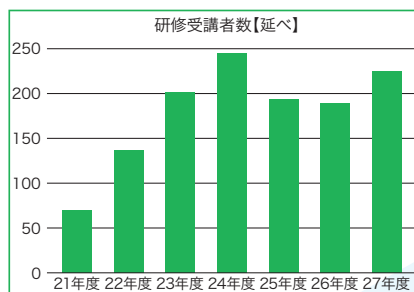
出産・子育て・介護・ハラスメントや業務上の悩み等、いつでも気軽に相談できる窓口を開設し、法人内へ周知しました。

特に工夫したこと・苦労したこと

研修の公募制度導入当初は、職員は消極的であったため、上司から部下に対して受講を促すように働きかけを行いました。

パート職員の正職員登用では、その透明性を図るため、登用に関する選考条件を明示するとともに、全職員にも周知しました。

相談窓口の設置については、相談者から見て敷居が高くなるように個人的でも些細な内容であっても相談できる窓口として周知しました。



取組みの成果

研修の受講者数は公募前と比較すると最大 5 倍に増え、職員の 9 割が介護福祉士を取得するなど、意識改革と業務の質的向上に繋がりました。

正職員への登用実績は、平成 25 年から 27 年まで 8 名でした。この 8 名は希望があった非正規職員全員であり、現在役職者として活躍している職員もいます。

窓口を設置したことで、職場でのハラスメントの火種を事前に把握し、改善に向けた指導ができるようになり、また、家庭の事情で退職を考えていた職員の離職を防ぐこともできました。

雇用環境 部門

サービス
介護老人福祉施設、
短期入所生活介護、通所介護、
居宅介護支援、
定期巡回・随時対応型訪問介護看護



社会福祉法人ひみ福祉会

【所在地】 氷見市柳田3892-1 【電話】 0766-91-2627
【URL】 <http://www.h-suwaen.jp> (すわ苑)
<http://www.care-net.biz/16/tumamaen> (つまま園)

- 人材育成委員会設置による課題整理やマニュアル整備
- 研修参加を積極的に推進
- 介護機器等の導入による腰痛対策

取組みを始めた背景・経緯

以前に比べ、介護人材の確保は大変困難です。そういう中でも、当法人に入職してくれた新採職員、それらの職員を指導していく中堅職員、そして法人の理念を受け継ぎ次代を担う幹部職員を、自分たちで育てていく、自分たちで成長するという想いが、人材育成委員会の発足に繋がりました。

取組みの概要・特徴

経験年数や役職などにより、課題や悩みがそれぞれ異なりますが、まずは、最も大きな不安を抱えているであろう介護現場の新採職員を対象にした課題チェックリスト（以下「リスト」という。）の作成に取り組むことにしました。つまま園は平成24年、すわ苑は平成28年から着手し、現在も検討を重ねながら内容更新をしています。また、人事考課制度を平成22年から導入しており、リストが人事考課の評価やキャリア段位制度につながるようにしました。

特に工夫したこと・苦労したこと

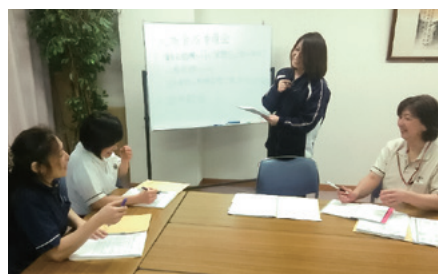
リストの項目が複雑にならないよう、要点を押さえる内容にしました。大項目（例：職業人として）を設定し、それらを場面ごとに中項目として分類（職業倫理など）し、小項目で一つひとつの内容（元気よくあいさつができる）をあげ、評価は（できる○、不安がある△、できない×、未実施／）とし、一目で何ができて、何ができていないかがわかるように工夫しました。

取組みの成果

新採職員への指導を統一したことで、指導者ごとの指導内容の誤差を少なくすることができました。できていないことや未実施の項目がすぐに把握でき、指導者間の引継ぎや情報共有にも有効で、新採職員との話し合いでもリストを見ながら話を進めることで不安や課題を明確にでき、その解消に繋げることができました。



つまま園 人材育成委員会



すわ苑 人材育成委員会

雇用環境 部門

サービス
介護老人福祉施設、短期入所生活介護、
通所介護、居宅介護支援



社会福祉法人舟見寿楽苑

【所在地】下新川郡入善町舟見1664 【電話】0765-78-1935
【URL】<http://www.funamijurakuen.jp>

- 子どもが1歳6か月まで利用できる育児休業制度の整備
- 施設外の第三者が入った検討会議の定期的な開催

取組みを始めた背景・経緯

平成16年に、働きたくても育児のため仕事を続けることができない、との職員からの声を受け、育児・介護休業等に関する規則を制定することになりました。

第三者が関わる検討会議は、職場内に経歴や経験等の異なる職員が多くいることから、共通認識を有し職場環境の改善と向上を図ることを目的に開催することになりました。

取組みの概要・特徴

育児・介護休業等に関する規則は、平成17年4月、1歳6か月に達するまでとして施行。その後、改正を加えて、現在に至っています。

第三者の検討会議第1回目は、平成27年6月に開催。一般職員、委員、役職者に分け、初回は意思の疎通を図るため、全職員の出席を求めました。講師は外部から招き、人事制度まで踏み込むなど、幅広い内容の研修を重ねています。

特に工夫したこと・苦労したこと

育児・介護休業等に関する規則を定める際、理事・評議員に現状などを訴え、施設存続のために当該規則が必要であるとの理解を求めました。また、取得する職員には、休業することで不利益は被らない旨の説明をし、安心して取得できるように努めました。

第三者の検討会議では、検討した内容が次回以降の会議にも継続され、最終的には、施設全体を巻き込みながら目に見える成果として現れるよう取り組んでいます。

取組みの成果

1年6か月の育児休業制度は、78人の女性職員中、13人が利用。また、短時間勤務制度を利用したのは4人です。この制度を利用した職員は計17人となり、女性職員の22%（5人に1人の職員）が利用していることとなります。

第三者の検討会議は、平成27年度には、全職員、一般職員、委員、役職者を対象に、計9回開催しました。平成28年度は、一般職員、委員、役職者を対象に、計8回の開催となっています。

外部からの講師を招くことで、自分たちが働く職場を、客観的に見るができるようになりました。

育児休業制度の整備



第三者の入った検討委員会

雇用環境 部門

サービス
介護老人福祉施設



社会福祉法人梨雲福祉会 特別養護老人ホーム梨雲苑

【所在地】 富山市吉作1725番地 【電話】 076-436-2002
【URL】 <http://www.riunen.com>

- 資格取得のための外部研修を勤務扱いとし、資格取得を支援
- 事業所内託児施設の設置
- タブレット端末などICT活用による
職員の負担軽減・業務の省力化

取組みを始めた背景・経緯

平成15年より一部ユニットケアが始まり、研修を受ける機会が多くなりました。職員の負担を減らす対応が必要でした。

新卒の職員、若手職員が多い中、妊娠出産を経て職場に戻ってくる職員も多く、戻った後の仕事と子育ての両立が課題でした。

各事業所が使用する本部の介護ソフトもデータ入力のタイミングが合わず、タイムリーな情報のやり取りがうまくいかないことがしばしばありました。



研修の様子

取組みの概要・特徴

研修については、制度の充実や職員の資格取得に対する支援を実施しています。

職員の仕事と子育ての両立については、梨雲苑ゆうゆうの開設の際に、事業所内託児施設「ゆうゆうガーデン」を平成26年度に開設しました。

ICT活用による職員の負担軽減・業務の省力化については、帳票類をPC入力で行い、タブレット端末も導入し省力化に努めました。バイタルや食事量・介護情報をその場ですぐに記録・保存ができます。

特に工夫したこと・苦労したこと

研修に関しては、全て勤務時間とし、参加費及び交通費は事業所で負担し、職員が参加しやすくしております。

小さな子どもがいる職員に対しては、必要に応じて、時短勤務や、夜勤の免除等業務内容も変更できるように配慮しています。

昨年度より訪問介護ヘルパーも全てタブレット端末を持ち、手書きレスとなっています。また、特養とデイサービスでは勤務表の作成ソフトを導入し、リーダーの負担軽減に努めています。



事業所内託児施設

取組みの成果

外部研修については、平成27年度は182回、延べ335人が参加しています。また、資格取得支援により、毎年8名程度が資格取得しています。

託児施設を開設することで、産休や育児休業から戻った職員も安心して仕事を続けることが出来るようになりました。過去3年間で産休育休を取得した職員は100%職場復帰しています。

職員が入力した情報は本部のサーバーで管理されるため、事業所各職種間でタイムリーに情報の共有が出来ることが大きなメリットとなっています。

表彰の経過等

募 集：平成28年8月～9月

選 考：平成28年10月21日（金）要介護度維持改善部門
平成28年10月24日（月）雇用環境部門

現 地 確 認：平成28年11月1日（火）要介護度維持改善部門

表 彰 式：平成28年11月23日（水・祝）
会場：高岡商工ビル
「地域包括ケア推進県民フォーラム」において

審査・選考方法：有識者による検討会の審査をふまえ、県が決定



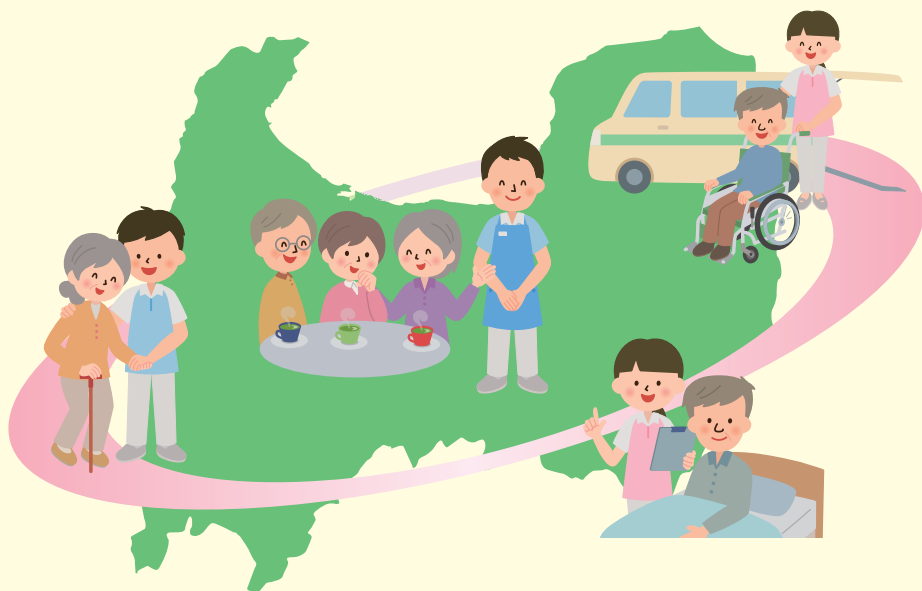
あしがき

2000(平成12)年4月に社会全体で高齢者介護を支える仕組みとして創設された介護保険制度はまもなく18年目を迎えようとしています。

富山県内で要介護(要支援)認定を受けている高齢者の数は、制度創設当初の2000(平成12)年には22,000人余りであったのに対し、2015(平成27)年度末現在では58,000人余りと約2.6倍になっており、介護保険制度は着実に社会に定着してきました。

また、今後、高齢化がさらに進展し、「団塊の世代」が75歳以上となる2025(平成37)年には、人口のおよそ3人に1人が高齢者となり、認知症の高齢者や、世帯主が高齢者の単独世帯・夫婦のみ世帯も増加していくと推計されています。その時、要介護認定者数も現在の約1.3倍となる78,000人余りに増加し、介護職員は、現在より約6,000人多い約22,000人が必要になると見込まれています。

このように、高齢者を取り巻く状況が大きく変わりつつある中、社会全体で高齢者の介護を支え合う介護保険制度を持続可能なものにしていくためには、より効果的・効率的で質の高い介護サービスの提供や、求められるサービスを提供するための人材確保・育成等が必要です。行政はじめすべての関係者が連携し、総合的・計画的に取り組んでいくことが求められます。

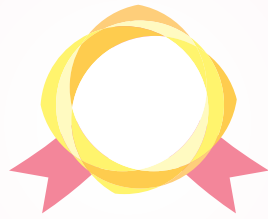


	2000年度	2015年度	2025年度(推計)
65歳以上要介護(支援)認定者数	22,757人	58,931人	78,304人
65歳以上人口(割合)	232,733人 (20.8%)	322,899人 (30.5%)	331,731人 (33.6%)
65歳以上単独世帯(一般世帯に対する割合)	19,931世帯 (5.6%)	39,871世帯 (10.2%)	44,812世帯 (12.1%)
65歳以上夫婦のみ世帯(一般世帯に対する割合)	29,441世帯 (8.3%)	48,733世帯 (12.5%)	49,445世帯 (13.3%)
認知症高齢者数	約2.2万人 (但し2001年度)	約5万人 (但し2014年度)	約6.7万人
介護職員数	—	15,972人 (但し2014年度)	21,721人

- ※ 要介護(支援)認定者数：(2000、2015年度)介護保険事業状況報告(厚生労働省)、
(2025年度)第6期富山県介護保険事業支援計画(保険者推計)
- ※ 65歳以上人口：(2000、2015年度)国勢調査、
(2025年度)「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」
- ※ 65歳以上単独世帯、夫婦のみ世帯：(2000、2015年度)国勢調査、
(2025年度)「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(26年4月推計)
- ※ 認知症高齢者数：(2001、2014年度)富山県認知症高齢者実態調査、
(2025年度)上記調査を元に富山大学が分析
- ※ 介護職員数：(2014年度)介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)を元に推計、
(2025年度)2025年に向けた介護人材にかかる需給推計(厚生労働省)

平成29年3月発行

編集発行／富山県厚生部高齢福祉課
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-431-4111(代)



がんばる介護事業所表彰